

平成30年度「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開内容

	公開期間	公開内容	公開作品
第1期	<p>4月19日(木)～ 6月17日(日) 〔60日間〕</p>	<p>虎豹たちの楽園 ～〈遠侍〉三の間《竹林群虎図》～</p> <p>二の丸御殿の玄關にあたる〈遠侍〉の一の間から三の間は「虎の間」と呼ばれ、来殿者が控える場です。入り口に最も近い三の間では、東、北、西面に13頭もの虎や豹が来殿者たちを待ち受けています。猛獣らしく咆哮、睥睨する姿、活気に溢れた駆け回る姿、ほほえましい親子の様子などが、バラエティ豊かに描き出されています。昨年度までに、これらの障壁画の修理および模写とのほめかえが完了し、今回は完了後初の公開です。修理中に発見された制作時の変更についても御紹介します。また、同時に〈遠侍〉の廊下杉戸絵2面も公開します。</p>	<p>〈遠侍〉三の間障壁画 《竹林群虎図》、〈遠侍〉 杉戸絵《竹虎図》</p>
第2期	<p>7月12日(木)～ 9月9日(日) 〔60日間〕</p>	<p>松と花鳥 ～ 式台の間、2つの時代の障壁画 ～</p> <p>二の丸御殿〈式台〉の式台の間は、〈大広間〉での将軍との対面を前に、来殿者が通された場所とされます。北側の壁と西、南、東側の長押上には、金地に松が描かれています。この《松図》は、寛永3年(1626)に制作され、桃山時代の豪壮さを受け継ぎつつも、新たな時代様式の萌芽が見られます。他方、西、南、東側の長押下の腰高障子には、他所から転用された、可憐な花鳥画が描かれています。この《花鳥図》は、優しい筆遣いと軽やかな風情から、17世紀後半から18世紀頃の作と目されます。1つの部屋を飾る、2つの時代の障壁画、それぞれの美しさを見比べてみてください。</p>	<p>〈式台〉式台の間障壁画 《松図》、《花鳥図》</p>
第3期	<p>10月4日(木)～ 12月2日(日) 〔60日間〕</p>	<p>煌めく秋草 ～〈黒書院〉菊の間の障壁画～</p> <p>〈黒書院〉四の間は、「菊の間」の異名のとおり、下の壁には、様々な垣根に沿って咲き誇る菊花が展開しますが、上の壁には、一面の金地を背景に、風にたなびく薄野原と舞い散る扇が描かれています。〈黒書院〉は、寛永行幸の際、公家や門跡衆をもてなす場となり、四の間では、公卿衆が豪華な膳を囲みました。煌びやかな秋の情景を描く障壁画は、宴席を飾るとともに、訪れた公卿衆に菊や扇にまつわる文芸作品を想起させたかもしれません。今回は展示収蔵館では初公開の杉戸絵《柴垣に朝顔図》も合わせて展示します。</p>	<p>〈黒書院〉四の間障壁画 《菊図》、《秋草扇面散 図》、〈黒書院〉杉戸絵 《柴垣に朝顔図》</p>
第4期	<p>12月17日(月)～ 平成31年2月17日(日) ※12月29日～31日は休館 〔60日間〕</p>	<p>探幽の孔雀 ～ 美しき写実と創作 ～</p> <p>将軍との公的な対面の際、来殿者が座した〈大広間〉二の間と、来殿者が控えた同三の間には、大きな松樹とともに、孔雀の姿が描かれています。孔雀は、中国、東南アジアを原産とし、古来、益鳥として、また、魔除けの力を持つ鳥と信じられ、尊ばれてきました。これら〈大広間〉の孔雀は、羽一本一本を写実的に描写する一方、その流麗な姿態には、現実の孔雀をそのまま描くだけでなく、大胆に創作されたと思しきものもあります。この写実と創作を破綻なく組み合わせ、気高いたたずまいの孔雀を描き上げた若き天才、狩野探幽の妙技を、ぜひ御堪能ください。</p>	<p>〈大広間〉二の間・三の間障壁画 《松孔雀図》</p>